

AEGIS-Women イベントご報告（第126回日本外科学会定期学術集会）

第126回日本外科学会定期学術集会にて、2026年4月23日にジョンソン・エンド・ジョンソン ブースセミナー「創合併症低減を目指した小切開創閉鎖について」を開催いたしました。本セミナーは第126回日本外科学会定期学術集会、AEGIS-Women、ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社の共催で、AEGIS-Women プレ10周年イベント第3弾として開催されました。

本セミナーは AEGIS-Women 会員ページにて動画配信しております。



AEGIS-Women 会員専用コンテンツ 動画サイト

<https://www.aegis-women.jp/member/index.html>

「創合併症低減を目指した小切開創閉鎖について」

講師：名古屋市立大学 消化器外科
山川 雄士 先生



今回のハンズオンセミナーでは、名古屋市立大学消化器外科の山川雄士先生を講師にお迎えしました。山川先生はセミナー開始前から会場周囲をまわって、参加される若手の先生方を盛り上げてくださいました。講義の後に引き続き実習となり、終始活気にあふれた時間となりました。

（写真中央 セミナー開始前に案内をしてくださっている山川先生）



実習では腹壁モデルを用いて、小切開創の腹壁閉鎖の手技を学びました。山川先生は時間の許す限り、参加者全員に技術指導にあたっておられました。4月に初期研修医になったばかりの先生も参加され、多くの学びと刺激を得ていた様子です。

今回の創閉鎖には PDS Plus に棘を付した STRATAFIX® Symmetric という縫合糸を使用しました。腹壁モデルで筋膜や皮下組織などの層構造を確認しながら、助手役の先生と息を合わせて縫合を進めます。通常の縫合糸とは異なる特性を活かした手技を体験し、参加者は実践を通して理解を深めました。

参加者全員が初対面でしたが、実習を通して自然に打ち解け、会場は温かな雰囲気となりました。他大学から参加された先生方との交流も生まれ、技術だけでなく新たなつながりを築く貴重な機会となったようです。また縫合の術者と助手の両方を経験することで、外科の面白さを短時間で実感できる内容になったのではないのでしょうか。このセミナーをきっかけに外科の入局を決意されたと話す先生もいらっしゃいました。次回は外科医として、学会で再会できることを楽しみにしています。

お手伝いいただいた名古屋市立大学医局員の先生方、ご参加いただいた研修医、専攻医の先生方、ありがとうございました。またお会いしましょう。



AEGIS-Women（消化器外科女性医師の活躍を応援する会）は今年の7月で活動開始から10周年という大きな節目を迎えます。この記念すべき年に向けて開催してきた「プレ

10周年記念企画」企業共催セミナーも、今回で第3回となりました。これまでに行われたセミナーは以下の通りです。ぜひご覧ください。

第1回 2025年11月21日 第87回日本臨床外科学会学術集会

『創合併症低減を目指した Pfannenstiel 切開と閉鎖について』

共催：第87回日本臨床外科学会学術集会、AEGIS-Women、ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社

長崎大学外科学講座 大腸・肛門外科/低侵襲センター 野中 隆先生

https://aegis-women.jp/document/newsletter_64.pdf

第2回 2025年12月11日 第38回日本内視鏡外科学会総会

『小さなポート、守る大きな安全～そのポート創大丈夫？～』

共催：AEGIS-Women、株式会社アムコ

東北大学 消化器外科学分野 山村 明寛先生

https://aegis-women.jp/document/newsletter_65.pdf

編集：山岡善子、本藤奈緒、松永理絵、大越香江